

暖房機を比較してみました。

ホームガス課 上田 耕也

冬には欠かせない暖房。ガス、電気、灯油など暖房機器はたくさん存在します。今は電気エアコンを使っているがガス暖房はどうか？ また灯油で暖房をしているが電気エアコンはどうか？と思っている方、今回は各暖房の特徴を紹介したいと思います。まず暖房機器の特性を紹介します。

暖房方式

対流式

一般的な方式で代表的なものは、エアコン、ストーブ、ファンヒーターです。暖房器具が空気を暖め、さらに暖めた空気を循環させていくことにより、部屋を暖める方式です。

輻射式

暖房器具本体から拡散する赤外線（遠赤外線）が輻射熱によって室内をあたためるものです。輻射熱とは、空気を介さない熱エネルギーのことです。オイルヒーターや床暖房があります。

伝導式

発熱する暖房器具本体に体を接して暖めるものです。代表的なものとして電気毛布やホットカーペットがあります。

暖房機器のエネルギー源

石油ストーブ

灯油を利用するという事もあり、ランニングコストで見ても効率の良い暖房器具と言えます。温風は使用しなくても、ある程度の速暖性があり、対流や輻射熱の利用で効率よく部屋全体を暖房することができます。また、大規模災害などで、ライフラインが寸断されて電気やガスが止まったときでも、単独で利用ができる点も、大きなメリットと言えるでしょう。灯油の補給が面倒なのがデメリットです。

電気エアコン

電気エアコンの最大の特徴はエネルギー効率がとても良く省エネです。つまりランニングコストが安いです。その反面あまりにも外気温が低すぎると、霜取り運転が始まり暖まるまでに時間がかかる場合もあります。またエアコン本体が高い位置に設置されている為、暖房時の温風が床まで届かず温度ムラが多くなります。それに加えてどうしてもエアコンは空気を暖めているだけなので、空気の乾燥感を感じてしまいます。

ガスファンヒーター

石油・電気・ガスストーブを比較した場合、ガスストーブは熱効率が非常に高いので、部屋を暖めるのも短時間で可能になります。またガスの燃焼時に水蒸気が発生するために、部屋の内部が乾燥しないというメリットがあります。石油の暖房器具のような臭いもほとんどなく、途中で燃料を補給したりする必要もありません。

3つの暖房機器の特徴を見てきましたが、それぞれの暖房機器はどんな環境に適しているかを見ていきます。

まず広い部屋には、石油ストーブもしくはガスストーブが適していると言えます。家族が集まるリビングなどの広い部屋の場合、別の部屋から小さい暖房器具を持ち込むより、強力な暖房を少数使う方が効果的です。そうした部屋に適しているのは、その空間全体を満遍なく暖めます。また、他の場所に比べて使用頻度も高くなりがちなので、費用面も気になります。これらの点を考慮して、広い部屋にはガスストーブ又は石油ストーブが適していると言えます。

一方、狭い部屋には、電気エアコンが適しています。電気エアコンは、即暖性が高く、場所をとらないため、狭い空間を暖めるのにぴったりです。

すぐに暖めたいときには、ガスストーブが最も適していると言えます。起床時や帰宅時などすぐに部屋を暖めたい、ということがあると思います。そういった時には、熱効率のいいストーブがおすすめです。

環境にあった暖房機器を使用することが大切だと思います。より良い暖房機器を選んで、寒い冬を乗り切りましょう。



ぴったりのガスファンヒーターが見つかる！

ガスファンヒーターの
選び方

さあ、家を片付けようと思ったら吉!! すぐに行動!! 散らかったもの、テトリスのように積み上げ

られたものか要らないのか分からないものを物色していく。そしてものの数分で懐かしいものや興

味のあるものと出会ってしまい、思い出に浸ってしまい、いつの間にか時間だけが過ぎていき、気が

付けば外は暗くなっている。やばい!!と気づき次回片付けようと思に決め、片付ける前より難易度の

高いテトリスが完成していくのである。片付けるより散らかるペー

整理収納アドバイザー 取得しました!!

リビングサービス課
大森 力

平成もあとわずかではありますが、新しい元号に向け、また年末の大掃除や年始に向けての心機一転のいい機会に今回は少しのアドバイスが出来ればと思います。

住宅リフォームという仕事柄、ただ単に時間が経ち古くなったから新しくリフォームする…だけでは、せっかくお金をかけるのにもったいないだけだと思います。せっかくリフォームするなら、絶対今より快適に、便利に、かっこよくを心がけるようにしています。

ただその前に、多くのおうちにお伺いさせて頂くのですが、私の自宅も含めて、「なかなか片付かない」と耳にすることがあります。

実は私、数年前に整理収納アドバイザーという資格を取得しました。そこで、リフォームをする方も、されない方も参考にして頂ければと思います。

家が片付かない2つの原因

原因1 物が多すぎる

手軽に何でも手に入る現代では、収納できるスペースに対して物が多すぎる家がほとんどです。

「いつか使うかもしれないからもったいない」と感じてしまう方や、「思い出に縛られて、捨てるタイミングを逃してしまっただ」という方、「片づける体力と気力がなくなってきた」、極端にいうと「捨てること＝悪」という道德観が身についているなど様々な理由で物が減らなくなっています。

物が多すぎると、要る物・要らない物の全体図が見えにくくなり、家に物があふれかえる原因になります。実際にリフォーム工事前の家財処分だけで数日間かかることも少なくありません。

まずは物を減らしましょう。

原因2 ルールがあいまい

学校では、カバンは机の横に掛ける。絵の具セットは棚に置く。体操服は廊下のフックにかける。など、ルールが明確で全員が把握しているので、それほど空間が乱れることがありません。

しかし自宅の場合、なんとなく物を置いてしまうため、部屋がすぐに散らかってしまいます。各物には役目があり家の中での定位置が決まっているのです。物の定位置をしっかりと決めてやり、使ったら戻す。家族に無理なく守れるルールを作り、秩序を保てるようにすることが必要です。

片づけるとは…物事にきまりをつける。片をつける。という意味で、 整理とは…区別して、不必要なものを取り除く。という意味です。

きまりがあり区別されているとたくさんの効果が生まれます。

- ① 時間的な効果…どこに何があるか分かっていると探すという無駄な時間がなくせます。
- ② 経済的な効果…2度買いを無くせます。
- ③ 精神的な効果…気分的に余裕があり不安がない、人とのコミュニケーションが良くなるという効果が生まれます。

ちなみに、ある会社が探し物に1人当たり1日10分使っているとしましょう。(時給1,250円としたら約210円)それが100人×220日とすれば年間で探し物に462万円を支払っていることになります。つまり、区別するとは、使っているものと使っていないものの区別、使う目的、頻度、時期、場所など予め決めて皆が知っておくことです。

【余談】5箱入りのボックスティッシュを買って帰ってきたらみなさんどうされますか？ とりあえずはそのまま置いていませんか？ 今使わなくても帰ったらすぐに外側のビニールを取り退いて定位置に置くきまりにするだけで、いざ使うときにはストレスなくスムーズに使うことが出来ます。次に使うことをちょっと意識するだけで気持ちよく過ごせますよ。